



高校で初めて牛を飼うという経験をしました。実際に3年間やってみて、大変な仕事が多いことに改めて気づかされましたが、そのぶん酪農の面白さも実感できました。今は、酪農に携わる仕事に、とくに家畜人工授精師に挑戦したいと思っています。(3年生、平塚綾音さん)



実家の酪農場を継ぐことを目標に、ここ標茶高校で学んでいます。牛舎作業には慣れているつもりでしたが、実家とはやり方や設備、管理のスタイルがかなり違い、学ぶことが多いなと感じています。卒業後はさらに多くの経験を積み、実家の農場を継ぎたいと思っています。(3年生、目黒陽輝さん)



父が削蹄師をしており、その姿を見て育った影響で、私も削蹄師を目指して酪農の道に進みました。入学して感動的だったのは、農作業機の扱い方を学ぶために実際に動かしてみたことです。削蹄を見学する機会もあり、改めて、乳牛の蹄の管理は大切なことなのだと思えました。(3年生、田中晃生さん)

#### 安全第一

実習では生徒が大型の農業機械を扱う機会を設けているので、怪我や事故がないように対策しています。生徒が機械を操作する際には必ず教員が立ち会って指導するなど、教員も緊張感を持っています。



#### 大規模経営を見越して

標茶高校では総頭数70頭(うち経産牛40頭)を管理しており、高校としては大規模運営です。フリーストール牛舎で、牧草のサイレージ調製やTMRの調製なども学べます。生徒達自身が手をかけてきた乳牛が健康であることが、やりがいにつながります。



実家のある弟子屈町で父が家畜人工授精業を営んでおり、その姿に憧れ、私も授精師を目指しています。この3年間の実習をとおして感じたことは、酪農とは命との別れもたくさんあるということでした。そのような経験から私は少しでも牛の命をつないでいけるような授精師になりたいと思っています。(3年生、渡部凌平さん)



#### 概要

北海道標茶高等学校 畜産Ⅱ(3年生)  
受講生徒数8名  
経産牛40頭、未経産牛30頭  
採草地46ha  
フリーストール／搾乳ロボット牛舎、育成牛舎、哺育牛舎、乾乳牛舎  
活動内容：授業内の実習を通じて、大規模経営の酪農をモデルとした牛舎管理作業を学ぶ。作業内容はより実践的に、即戦力となることを目的とし、幅広い作業を実践的に取り組む。農場HACCP認証取得農場。  
担当教諭：塚田 新 先生

#### 将来を見据えた選択

標茶高校は選択制の授業が多く、牛舎での実習は、将来酪農に関わる仕事をしたい生徒が多く集まっています。皆、意欲的に活動しています。

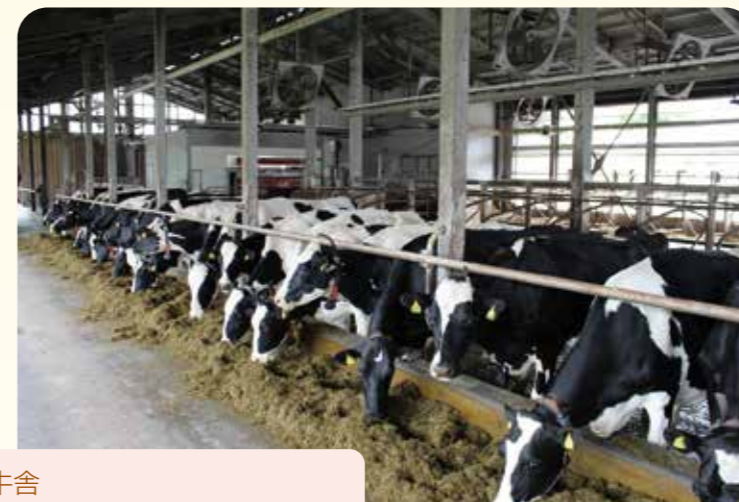
NO.8

### 北海道標茶高等学校



かつて私も酪農家になることを志しましたが、これまでの経験から、未来の酪農家を育てるという仕事にやりがいを感じ、教員として酪農に携わっています。生徒達には、酪農場ですぐに活躍できる人材になれるよう、自分で考え行動する力を養い「指示待ち姿勢にならない」ことを目標に接しています。とは言え、つい口を挟んでしまうこともあります。(塚田新先生)

酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？  
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！



#### 搾乳ロボット牛舎

高校の施設としては珍しく、搾乳ロボット牛舎を備えています。新しい技術に触れてもらうために導入されました。搾乳牛はすべて搾乳ロボットで搾乳をしています。ロボット搾乳に最適な乳頭配置となるように改良を行ないました。



牛乳が大好きで、乳が生産される現場に興味を持ったことがこの高校を選んだきっかけです。実際に牛を飼ってみて、1頭の牛から出る乳の量に驚きましたし、そのほかにも初めての経験だらけで充実しています。今は、給与するエサによって牛がどのように変わるかについて興味があり研究しています。これからも牛と美味しい牛乳に関わっていきたいと思っています。(3年生、林海斗さん)



実家が酪農家で、高校から酪農を学ぶために、現場環境が充実している標茶高校に進みました。実家の農場で今まで見てきたものとはまったく違う環境だったので、発見の連続です。将来は進学し、多くの経験を積んで自分の将来を決めたいと思っています。(3年生、瀬戸有哉さん)



学生牛部は今!